

# 責任概念の素朴理解と非難を規定する心理過程の 解明と法的概念の教育方法の考案

唐沢 穰

(名古屋大学環境学研究科)

キーワード：責任、非難、素朴理解

## 研究目的

当班における研究目的は、法に関する専門教育を受けていない一般人に見られる「素朴法理解」、すなわち、法的概念に関する素人理論やナイーブな理解の構造を、社会心理学的な理論と方法を主な基礎としながら明らかにすることである。特に、責任の概念と、これに関連するさまざまな非難の構造について重点的に考察することを目指している。

## 主な研究活動

### 1. 研究会の開催と個別研究の推進

班員相互の研究内容を共有し、共同作業を推進するための合同研究会を、2011年度に4回、2012年度は本報告執筆時までに3回開催した。

### 2. 理論構築

(1) 責任概念の規範論的整理：奥田を中心に、哲学・倫理学などの分野における責任概念の整理を試みた。奥田の報告にもあるように、責任の種類を整理する際の基準となる、いくつかの次元を特定するとともに、これに沿った責任内容の比較検討を行った。このうち心理学的な実証研究の対象となりうるものとそうでないものを整理することが、次年度以降の課題である。

(2) 責任概念の心理学的整理：膳場を中心に、従来の社会心理学研究における責任概念モデルの変遷を概観し、その整理を行った。膳場の報告にもあるとおり、因果性の認知に基づく責任判断と、役割等に基づくものとの区別など、実証的仮説の導出が可能な、いくつかの理論モデルを比較検討した。また、今後実施する予定の文化比較的研究

の基礎を築く作業にも十分な進捗があった。

(3) 非難の根拠となる公正観の検討：唐沢を中心に、刑事事例に関する一般人の素朴判断の基礎となる心理過程の比較検討を行った。特に、Darley (2009) の議論などを参考にしながら、懲罰動機の根拠となる応報的公正観と功利主義的判断に関する、従来の社会心理学的研究を概観し、検証可能な実験仮説をいくつか導出した。

### 3. 実証的研究

(1) 個人の責任と「組織風土」等の責任：交通違反行為のシナリオを題材とし、Web調査の手法を用いた一般サンプル対象の調査を、松村が実施した。結果の詳細については松村報告を参照。

(2) 命令的規範と記述的規範：異なる種類の規範意識が発動されることによって、違反行為への許容度が変化する過程を、村上が実験的に検討した。方法と結果の詳細は村上報告を参照。加えて、記述的規範に関する情報源が内集団・外集団のいずれであるかによって、規範遵守に変化が生じる可能性について、唐沢研究室・應治麻美を中心に行った実験研究によって検証した。

(3) 懲罰動機の根拠：刑事事件のシナリオを呈示して量刑判断を求めるとともに、懲罰動機の根拠となる心理的媒介過程を明らかにするための実験を、唐沢を中心に行った。応報的公正判断の規程要因として知られる、犯罪性、故意性、結果の重大さなどの要因に加えて、被告の道徳的人格性に関する情報を操作したところ、これらのいずれもが量刑判断に影響することが示された。また、道徳的人格性が重罪に関する量刑判断に及ぼす影響については、応報的動機と功利主義的動機の両方が媒介している可能性があるのに比べ、軽罪の

場合には主に応報的動機のみが関与していることを示唆する結果が得られた。結果の頑健さを確かめるために、今後さらに同様の研究を蓄積していく予定である。

また、被告を「非人間化」することが量刑判断にどのような影響を与えるかを検証するための実験を、唐沢研究室・塚本早織を中心に行った。結果は、非人間化が厳罰傾向を助長することを示した。従来の研究において、非人間化は差別や偏見の表明、維持、および正当化などと関連することが示されている。これと一貫する本研究の結果は、単に法と心理学だけにとどまらず社会心理学の幅広い分野における研究にも示唆を与えるものへと発展する可能性も備えたものであると言える。

(4) 一般市民の裁判参加の可能性との関連研究:

唐沢研究室・塚本早織を中心とする別の実験研究では、裁判員裁判に関する報道に触れた一般市民が、裁判におけるどのような要因に着目して、量刑判断を理解するのかについて検証を行った。結果は、一般市民が量刑判断の基準となるべき事件の内容だけでなく、裁判員の能力や感情といった認知、心理的な側面も量刑判断に影響を与えると推測することが明らかになった。

加えて、松村の報告にもあるように、修復的司法の評価に関わる研究プロジェクトの事例をはじめ、海外における司法制度の実情に関する事例的検討を行うことにより、市民の司法参加がもたらす効果についての予測と評価、問題点の同定等を行った。

(5) 集団間関係と公正判断：個人間だけでなく集団間においても、加害行為とそれに伴う罪悪感、敵意、偏見などの感情と、その帰結としての非難が起こる。その基礎となる心理過程と、謝罪の効果との関連などについて、唐沢研究室・後藤伸彦による一連の研究を行った。

#### 4. 実務家研修の開催

法教育に関する研究および実践の事例を題材にとった実務家研修を、公募班（長谷川班）の協力を得ながら以下の内容で開催した。

テーマ：「市民と育む法意識：法教育の理論と実践」  
講師：梅田比奈子（横浜市教育委員会主任指導主事）、外山紀子（津田塾大学教授）、村松剛（弁護士 横

浜弁護士会所属）、吉岡昌紀（清泉女子大学 教授）  
（岡山大学津島キャンパス、2012年6月12日）

#### 5. 研究成果の公表

唐沢研究室における研究成果の公表は以下の通りである。

【書籍（分担執筆）】

Karasawa, M. (2011). Categorization-based versus person-based explanations of behaviors: Implications from the Dual-Process Model. In R. M. Kramer, G. J. Leonardelli, & R. W. Livingston (Eds.), *Social cognition, social identity, and intergroup relations: A Festschrift in honor of Marilynn B. Brewer* (pp. 9-26). New York: Psychology Press.

【論文】

唐沢 穰 (2013) 「正義」への心理学的アプローチの可能性—法と正義の心理学的基盤・コメント 2 『法社会学』 78号（印刷中）

【学会発表】

[2011年度]

後藤 伸彦・唐沢 穰 (2011). 加害集団内の類似性と罪悪感表明が被害集団からの評価に与える影響. 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 9月18-19日.

Goto, N., & Karasawa, M. (2012a). They said they are different from historical perpetrators and feel guilt. Now, what should we do? Effect of similarity expression on intergroup forgiveness. Society for Personality and Social Psychology Pre-Conference: Group Processes and Intergroup Relations, San Diego, CA, January 26-28.

Goto, N. & Karasawa, M. (2012b). Effect of similarity/dissimilarity expression and guilt expression from a historical perpetrator group on guilt assignment by a victim group. The 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, San Diego, CA, January 26-28.

Karasawa, M. (2011). Social groups as a basis

for explanations: How ordinary perceivers make sense of other people's behavior. Keynote address at the 9th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology, Kunming, China, August 29.

塚本 早織・唐沢 穰 (2011). 「非人間的」な被告は重罪か—被告の性格的特徴が懲罰判断に与える影響. 法と心理学会第 12 回大会, 名古屋大学, 10 月 1-2 日.

塚本 早織・菅 さやか・唐沢 穰 (2011). 性別に関する本質論的認知が量刑の妥当性判断に与える影響. 日本心理学会第 75 回大会, 日本大学, 9 月 15-17 日.

Tsukamoto, S., & Karasawa, M. (2012). Are dehumanized defendants more guilty than "human-like" defendants?: Implications of dehumanization on the jury system. The 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, San Diego, CA, January 26-28.

[2012 年度]

Goto, N. & Karasawa, M. (2012c). Belief in a Just world for self and others as a determinant of collective guilt assignment toward an outgroup. The 14th Biennial Conference of the International Society for Justice Research, Tel Aviv, Israel, September 9-12.

唐沢 穰 (2012a). 「ミニシンポジウム 法と正義の心理学的基礎」(指定討論). 日本法社会学会学術大会, 京都女子大学, 5 月 12 日.

Karasawa, M. (2012). Punishment of an immoral character as a just desert: A case of Japanese lay judgments. Paper presented at the 14th Biennial Conference of the International Society for Justice Research, Tel Aviv, Israel, September 9-12.

唐沢 穰 (2012b). 「ワークショップ 道徳判断研究の最前線」(話題提供). 法と心理学会第 13 回大会, 武蔵野美術大学, 10 月 20-21 日.

應治麻美・石田正浩・唐沢穰 (2012). 命令的規範と記述的規範の乖離状況における行動促進アプローチ. 日本社会心理学会第 53 回大会,

つくば国際会議場, 11 月 17-18 日.

塚本 早織・唐沢 穰 (2012). 被告の非人間性が更生可能性の評価に与える影響. 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学, 9 月 11-13 日.

Tsukamoto, S., Suzuki, A., & Karasawa, M. (2013). A dehumanization influence on the morality judgment of an environmental issue. The 14th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, New Orleans, LA, January 17-19.

【招待講演等】(すべて Karasawa, M.)

- When people use groups as a basis for explanations: Salience, entitativity, and essence of groups. Colloquium at the School of Psychology, University of Queensland, Australia (September 2, 2011).
- Immorality and Inhumanness influence punitive motives. Presentation at Department of Psychology, Princeton University. (March 16, 2012).
- Punishing immoral and inhuman characters: Potential roles of utilitarian and just desert motive. Presentation at Department of Psychology, New York University. (March 19, 2012)
- The perception of intentionality and responsibility for a group. Presentation at Columbia Business School. (March 22, 2012)

## 引用文献

Darley, J. M. (2009). Morality in the law: The psychological foundations of citizens' desires to punish transgression. *Annual Review of Social Sciences*, 5, 1-23.